

## 令和3年度第2回浜松市美術館協議会会議録

1 開催日時 令和3年12月9日(木) 午後2時から午後3時30分

2 開催場所 浜松市美術館 2階講座室

3 出席状況

(出席委員 7人)

会長	内田 いず美	委員	田中 裕二	委員	青木 明子
委員	鶴田 雅之	委員	磯部 啓次	委員	山口 剛
委員	生熊 周				

(欠席委員 1人)

(出席者の職氏名)

市民部文化振興担当部長	中村 公彦	浜松市美術館長	飯室 仁志
浜松市美術館長補佐	高山 和也	秋野不矩美術館長	小木 知靖
主幹	石田 博基		

4 傍聴者 0人

5 議事内容 審議事項  
(1) 浜松市美術館外部評価について  
(2) その他

6 会議録作成者 美術館美術振興グループ 石田博基

7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音有

8 会議録

- 1 開会 (高山館長補佐)
- 2 浜松市美術館協議会会長挨拶 (内田会長)
- 3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ (中村部長)
- 4 議題

- (1) 浜松市美術館外部評価について  
(事務局 飯室館長から資料に基づき説明)
- (2) その他 (秋野不矩美術館指定管理者の指定について)  
(事務局 飯室館長から資料に基づき報告)

(質疑)

- (1) 外部評価について

委員：美術館と、楽器博物館等のHPを比較すると、楽器博物館の方がオシャレなものになっているが、市の方でなにか縛りがあるのか。

事務局：以前から美術館のHPがオシャレじゃないといった声があり承知している。市の方では縛りがあるが、その中でも出来ることがあるため調整中である。過去の展覧会情報は載せていないので、そういったものは我々でもUP出来るので改善していきたい。

委員：楽器博のプロバイダは文化振興財団と同じでサーバーも1つ。それによりコスト的に安く上がっている。

委員：館蔵品が7000点あまりあるが内容についてなかなか見ることが出来ない。保管方法・保管場所・コンディションレポートはどのように管理しているのか？それらがベースで自主企画が組み立てられると思うのだが。

秋野不矩美術館が指定管理になり、管理者側で美術品を管理するとおもうが、美術品の移動に関わる保険・補償はどうなっているのか。

事務局：浜松市美術館は毎年少しずつ美術品をHPにアップするという作業をしている。基本的に著作権切れのものを見れるようにつくっていききたい。また、作品のサムネイルだけでなく作品解説なども考えている。

美術品管理に言うと、この建物には脆弱なガラス絵など全体の10%程度置いている。他は引佐の地域遺産センターの収蔵庫にある。

輸送費もかかるため計画的に館蔵品展を考えている。輸送の際には作品に保険が掛けられている。

秋野不矩美術館の作品管理は基本的に我々となる。作品の出し入れは学芸が立ち会う。管理者側が収蔵庫の中に全く入れない訳ではなく、基本的な管理は市側となる。館の中に収蔵されている美術品は市全体で掛けられている保険の対象となる。外に出る場合は借り手側が保険に掛けることになる。

コンディションレポートは7000点もあるため、全て出来ている訳ではない。こちらに作品をもって来る時や貸出をする際にコンディションレポートが出来てくるということになる。引佐町の方は24時間の空調管理をしている。

委員：購入・寄贈の割合はどのくらいか。

事務局：(購入が約10%・寄贈が約90%(後日回答))

委員：博物館で紛失したことが問題になっているが、美術品7000点の棚卸のSPANはどうなっているか。また収蔵庫へのアクセス制限はどうなっているか。

事務局：チェックを一気にやることは人員的に不可能なので余裕のある職員が交代で1年かけてチェックしている。

鍵の管理は館長・補佐が管理をしていて、職員が持ち出す際に把握している。引佐の収蔵庫の方は入出庫の履歴が残る形となっているが、浜松市美術館の方は恐らく履歴は残らない。

委員：入出庫・入退出の履歴がないといつ紛失したか分からない。徹底してもらいたい。

事務局：引佐の収蔵庫前の監視カメラは来年度予算要求をしている状況。

委員：IPM(害虫管理)の管理職員はいるのか。

事務局：担当職員は1名いる。燻蒸がいいのか話題になっているが、秋野不矩美術館・引佐含めて定期的に行っている。

委員：今までコレクション方針がないまま収蔵していたと伺ったが、今後の方針は？

事務局：収蔵方針はないわけではない。

(1 近現代美術の流れを展望できるすぐれた作品 2 郷土に関係のある優れた作品 3 秋野不矩に関する作品及び資料 4 前各号に掲げるもののほか館資料として適したもの。(後日回答))

委員：フランスに行ったときに美術館で先生が引率して子どもたちにスケッチさせていたシーンが強く印象に残っている。こちらでも色々難しい部分があると思うが、そのような機会が提供できればよいと思うが。

また、一休み出来るおしゃれな場所が欲しい。秋野不矩美術館に対して土日だけでもキッチンカーなどの誘致をと意見があったように、そのような場所があると美術館の評価が上がるのではないか。

収蔵品については7000点あると聞いたが、この美術館は手狭である。新美術館の構想は現段階どうなっているのか？

事務局：スケッチは仏像の展覧館の時に構想があったが、手狭で踏み切れなかった。

部長：新美術館については、現美術館が平成29年度に大規模改修したこともあり、重要文化財等を展示できる環境となった。今後はそのような条件を生かしていきたい。また、公園の中での美術館ということで意味があると考え。浜松城や茶室等もあるため、そのような他施設と連携してできればよいと思っている。

委員：関心がある人は分かるが普通の一般市民は、浜松市美術館が何をやっているかまいち分からない。

事務局：一般的には広報はままつで広報している。共催の展覧会では新聞・テレビなどで広報できるが。絵本展は市直営なので中々周知出来ない状況だった。

委員：広報はままつは展覧会期間中であっても1回しか載らないので、まいち周知されていない。展覧会のチラシなども自治会の回覧を利用すれば効率的に

周知できるのではないか。

委員：中学校に私が勤務していた時に展示会のPRをどうするか考えた時があつて駅前のソラモのビジョンで放映すると1週間10万円くらいとか、バスの中のテロップだといくらとか中々シビアである。費用対効果を考えるとどうかという問題もあり中々難しい。工夫しながら考えてもらいたい。

委員：広報でツイッターをされていて、意外と小中学生が見ている。これからの浜松ということを考えると、次世代の人達にターゲットを置いたツイッターによる情報発信は効果的であると思う。HPも独自で作り上げていくには時間もかかるため、アウトソーシングも考えたらよい。

現状の中でやってくとしたら、HPはアーカイブ化して作品を調べたい人向けに特化して、それ以外の現在やっているもののPRはSNSでというように棲み分けをしたらどうかと思う。

アーカイブ化も数が多く一度には難しいと思うので、館蔵品展をやるごとにチェックをしてアーカイブ化するか、年間100点とか計画的にUPしていけばよいのでは。

美術館は雰囲気がとても大切。作品だけを見に来るわけではなくて特別な空間を提供するのも美術館である。改修したならば、現状の良さを生かした館の運営を考えていく必要がある。現在の外の雰囲気は落葉していてよい雰囲気だが、夏来ると鬱蒼としていて森みたいな状態になっている。他の機関とタイアップしていかないと部長が言われた公園を挙げての売り込みが出来ない。

委員：30～50代に聞いたら、ほとんどの人が美術館に行かないとの返答。美術館に行つての「体験」、行つて楽しかったという体験がいまいち少ないと感じる。アウトリーチを積極的に行つて「体験」を増やしていくような広報戦略に切り替えていくと良い。

委員：今、博物館とか美術館に来ている人達は大体小さいころに来ている。その体験があるから今来ている。小さい頃にかにここに足を運ばせるかが大事になってくる。私の娘もボローニャの絵本展に来ていて、ああいう体験があると次の展覧会も行きたいと言い出す。いかに小さい子に來させるかが課題である。そういう体験を出来た子たちが大人になって自分の子どもを連れてくるという良い循環が生まれる。

委員：教育の現場で美術館について聞くと、場所すら知らないという子が多い。小中学生の子どもの市展が3年くらい前に美術館の計らいで行われるようになって、非常にありがたいと感じている。今後も進めて頂きたい。

委員：子どもの市展はクリエートから浜松市美術館に移った経緯があるが、館長の思い(将来子供達もどってくるから)があつてこちらでやるようになった。また保護者からも、浜松市美術館で展示されてよかったと聞いている。長い目で見れば、そういう子たちが大きくなって自分の子どもを連れて来るといふようになると期待している。

委員：アウトリーチや出前講座とかもそれなりに手間暇がかかること。来年度は3本企画展があるとの事だが、それをやりつつ教育普及もやって広報もやる事を考えると、それなりの人員体制の充実が必要となってくる。広報・教育普及などのそれぞれのセクションに専門職がいてもよい。もう少し人員体制の充実を訴えてもよいと思う。

模写の話だが、他の館で子どもが模写をしていたら注意をされてそれをブログに乗せて話題になった。教育普及の考えもあるが、施設側の言い分もある。今後、模写・写真撮影・会話も考えていかなければならない。例えば月曜日の休館日に学校などの団体を呼んで鑑賞してもらおうという事に取り組んでいる美術館もあるが、逆に学芸員の負担にもつながる。何をやるにしても人員体制を充実させておく必要がある。

委員：ウィークデーに子どもたち用に振り分けするのはやってみてもよいかと思う。

事務局：我々も同じようなことを考えているので少しずつやっていきたい。現在、水曜日はウェルカムキッズデーとして設定している。

委員：アウトリーチで10回ほど講座に行っているとの事だったが、遠隔地の学校の子達はなかなか行けない。今ではWEBを使った実施もできるので、他の学校もWEBで参加すれば参加数も2倍になってよいのでは。

ボローニャ展の時には絵本コーナーがあったが、しんとした雰囲気ですごく読みにくかった。雰囲気づくりが大切。

委員：展覧会をつくる時には雰囲気づくりは凄く考える事。監視の人は目につかないようにするとか、照明、動線とか。学芸員は大変だが、そこをスキルアップしていくと親しみやすい空間づくりが出来る。

委員：美術館評価は何をもって評価したらよいか。「運営についての考え方」の位置づけはどうなっているのか。

事務局：基本的に評価は実際の展覧会をご覧いただき、資料と併せて評価いただきたいと考えている。「運営についての考え方」は令和2年の文化振興ビジョンの改定を機に定めたもので、今後の美術館の方針が書かれている。基本理念に基づいたもので具体的な事業計画ではない。

委員：展覧会の観覧者数の目標はどのように定めているのか。

事務局：過去の同種・同規模の展覧会を参考に設定している。

## (2) 秋野不矩美術館指定管理者の指定について

意見なし

8 閉会 (高山館長補佐)